



これって本当に必要? — 宣伝文句につられやすいビミョーな栄養素 —

各種飼料やサプリメントには、馬にとって必要な栄養素の役割や期待される効能が表示されています。薬事法との関係で曖昧とならざるを得ない表現はさておいても、まるでそのサプリメントを与えないとパフォーマンスや健康維持に悪影響を及ぼしかねないと思わせるものは少なからずあるようです。そうした宣伝文句を正しく吟味、判断するため今回は、馬にとって重要な栄養素でありながら必ずしも補給が必要ではない栄養素について紹介します。

・ビタミンD

ビタミンDは、カルシウムとリンの吸収を促進するため丈夫な骨づくりには欠くことのできない栄養素です。馬の飼料のうち、天日乾燥された乾草にはビタミンDが豊富に含まれているうえ、屋外で日光を浴びる機会がある馬では紫外線により体内でビタミンDが合成されます。一方、ビタミンDを過剰に摂取すると骨格筋や動脈、心筋などの軟部組織にまで石灰を沈着させてしまい、それら組織の機能障害を起こさせます。したがって、通常の飼養管理が行われている馬にはビタミンDの補給は必要がなく、とくにカルシウム添加飼料を利用する場合にはビタミンD配合と謳われているものには注意する必要があります。

・ビタミンK

ビタミンKの一般的な機能は、血液凝固作用と骨形成正常化ですが、通常の管理下にある馬ではビタミンKが欠乏する可能性はありません。なぜなら、馬の大腸内でバクテリアによってビタミンK (K2) が合成されていることに加え、馬が食べる牧草にはビタミンK (K1) が比較的多く含まれているからです。一方、カビが生えたクローバ乾草に産生されるジクマロールはビタミンK欠乏を招く作用があり、それを摂取した馬の血液凝固を阻害したという報告があります。外科的な治療を控えている馬には注意が必要です。また、飼料に添加されるビタミンK (K3) を含め、馬では過剰な経口摂取の毒性は低いとされていますが、筋肉あるいは静脈注射による投与は腎臓機能障害が報告されています。

生後間もない子馬のビタミンKの栄養状態は低く、成長とともに牧草摂取量が増える(腸内バクテリア数の増加)にしたがい、改善されることが知られています。それに伴って骨発育も促進されるものと考えられます。ビタミンK配合と表示、宣伝されている飼料を与えるよりも、日々一定量の牧草を給与することの方がより重要と言えます。

・鉄

鉄は必須ミネラルのひとつで、体内では造血作用や貧血防止などの役割を果たす重要な栄養素です。馬では、牧草やさまざまな飼料から要求量の2倍程度の十分な鉄が供給されているため、通常管理下では鉄欠乏は起こりえないとされており、そのような報告も見当たりません。一方、過剰な鉄摂取は銅欠乏を誘発し、下痢や細菌感染のリスクを高めるとの説もあります。また、馬は過剰に摂取した鉄を体外に排泄する効率が悪いとされていることから、必要以上の鉄摂取には注意が必要です。ヒトでは、鉄欠乏性貧血や溶血性貧血に代表されるスポーツ性貧血への対症療法として鉄を多く含む食品の摂取が推奨されていますが、馬とは事情が異なるのです。

・ラベル表示に惑わされ……

個々のビミョーな栄養素に対する注意もさることながら、飼料によって補強が必要な栄養素でも複数の同種の飼料サプリメントを与えることによって、ある特定の栄養素を過剰に摂取させてしまう恐れがあります。ビタミンB群やビタミンEのような過剰症の心配がない栄養素であれば問題ありませんが、セレンやビタミンA、亜鉛(銅との摂取比率が重要)などが過剰摂取とならないよう、ラベル表示をよく確認したうえで信頼できるサプリメントを選択する必要があります。とくにラベルやチラシに記載されている「宣伝文句」や「あの馬に与えられているからうちの馬にも」は慎重な吟味が必要です。



さまざまなサプリメントを複数種利用する場合には、過剰症が懸念される栄養素の重複に注意しなければならない